# 「ウイグル問題」と関わり続けて(完績)

国際社会や日本は何をすべきなのか。救援のために奔走する筆者が見たその実相とは。締め付けは、習近平政権でさらに苛烈なものに。ウルムチ事件での衝突以来、中国政府の

門は現代中国史・近現代日中関係史。学院博士課程単位取得満期退学。専学院博士課程単位取得満期退学。専みずたに、なおこ、日本女子大学大みずたに、なおこ、日本女子大学大明治大学准教授

人が収集した情報では大きな齟齬がある。私が聞き知った人経由で「ウルムチ事件についての当局発表と、ウイグル事件から一週間後、ラビア・カーディルが在日ウイグル

トの仕業」と大々的に宣伝した。

ラビアは日本記者クラブで会見する予定だったが、

直前

抵抗権は徹底して否定する。ウルムチ事件も、「テロリスで中華民国政府を転覆したにもかかわらず、ウイグル人ので及革命分子、国家分裂主義者と呼んでいたウイグル人ので及革命分子、国家分裂主義者と呼んでいたウイグル人ので政革命分子、国家分裂主義者と呼んでいたウイグル人ので政府活動家に対して「テロリスト」とレッテルを貼り、で政府活動家に対して「テロリスト」とレッテルを貼り、で中華民国政府を転覆したにもかかわらず、ウイグル人ので中華民国政府を転覆したにもかかわらず、ウイグル人ので中華民国政府を転覆したにもかかわらず、ウイグル人ので東端が見つからない」と連絡してきた。

128

二〇〇〇年中国人民大学へ留学。著書

一九九〇~九三年復旦大学、

に『中国を追われたウイグル人』『「反日

以前 中国対日工作者たちの回想』など。

になって日本記者クラブは「場所は提供するが、主催者から下りたい」と言い出した。そこで急遽、私が主催して会ら下りたい」と言い出した。そこで急遽、私が主催して会は『ウルムチ事件とラビア氏』と題した日本語DVDをメは『ウルムチ事件とラビア氏』と題した日本語DVDをメールの治活動家が描写されるのは常套手段で、テレビドラマでもウイグル人テロリストとの戦いを描くものが複数存在でもウイグル人テロリストとの戦いを描くものが複数存在でもウイグル人テロリストとの戦いを描くものが複数存在でもつイグル人テロリストとの戦いを描くものが複数存在でもウイグル人テロリストとの戦いを描くものが複数存在でもウイグル人テロリストとの戦いを描くものが複数存在でもつイグル人テロリストとの戦いを描くものが複数存在でもつくによれている。

については、現在もなお解明されていない。
ていたという密航政治亡命者もまた、「当局発表のウルムチ事件ウイグル人死者数と、私が当時埋葬した死者数はあまりに大きな隔たりがある」と証言していた。「死者は拘まりに大きな隔たりがある」と証言していた。「死者は拘まりに大きな隔たりがある」と証言していた。「死者数はありについては、現在もなお解明されていない。

いた、米ジョージタウン大学ジェームス・ミルワード教授け、"Eurasian Crossroads: A History of Xinjiang"を書れた。中国共産党は、特に学者の文筆活動に厳しい目を向 翌二○一○年三月、私は中国の北京空港で入国を拒否さ

### それでも自由があった胡錦濤時代

ら、アメリカ人新疆研究者たちも入国拒否に遭っている。

融和的な人物となった。

融和的な人物となった。

融和的な人物となった。

融和的な人物となった。

融和的な人物となった。

融和的な人物となった。

融和的な人物となった。

融和的な人物となった。

融和的な人物となった。

のたぐいさえも、一切の情報が遮断されて閲覧できなくのたぐいさえも、一切の情報が遮断されて閲覧できなくコンピュータを専門とするウイグル人がさまざまなサイトでは、敏感な政治問題にも果敢に意見を戦わすさまがイトでは、敏感な政治問題にも果敢に意見を戦わすさまがイトでは、敏感な政治問題にも果敢に意見を戦わすさまがイトでは、敏感な政治問題にも果敢に意見を戦わすさまがイトでは、敏感な政治問題にも果敢に意見を戦わすさまがイトでは、対応を表表ウイグル人の経歴や、過去のニュースト上に存在した著名ウイグル人の経歴や、過去のニュースト上に存在した著名ウイグル人の経歴や、過去のニュースト上に存在した著名ウイグル人の経歴や、過去のニュースのたぐいさえも、一切の情報が遮断されて閲覧できなくのたぐいさえも、一切の情報が遮断されて閲覧できなくのたぐいさえも、

# 習近平「西部大開発」から「一帯一路」へ

中国では二〇一二年、政府へ陳情や異議申し立てする 中国では二〇一二年、政府へ陳情や異議申し立てする 中国では二〇一二年、政府へ陳情や異議申し立てする 中国では二〇一二年、政府へ陳情や異議申し立てする

主権者を交代する「漢化策」が必須であったのだ。一四年四月に発生した「ウルムチ駅爆破物炸裂事件」は、一四年四月に発生した「ウルムチ駅爆破物炸裂事件」は、一四年四月に発生した「ウルムチ駅爆破物炸裂事件」は、一四年四月に発生した「ウルムチ駅爆破物炸裂事件」は、一四年四月に発生した「ウルムチ駅爆破物炸裂事件」は、一四年四月に発生した「ウルムチ駅爆破物炸裂事件」は、

二〇一六年にテュルク系ムスリム強制収容のニュースが伝えられて以降、私のもとにはさまざまな相談が寄せられ伝えられて以降、私のもとにはさまざまな相談が寄せられるようになった。日本各地の大学事務室からは「留学を許可した中国在住ウイグル人学生が音信不通となった」、在可した中国在住ウイグル人学生が音信不通となった」、在可した中国在住ウイグル人からは「中国のパスポートない」、日本で働くウイグル人からは「中国のパスポートが切れそうなので大使館に連絡したら帰国しろといわれたが、日本のビザだけで日本で生活できるか」などである。さらに「某大学の院生が下宿をそのままにして一時帰国したが、日本に戻らない」「親族が収監された」「就職が決まらないが、難民申請する以外に日本に残る方法はあるか」などという切実な相談も日常的に耳にした。

のは、そうした若者をどう導くかという問題である。のは、そうした若者をどう導くかという問題となっているに育ったこれらの若者は、日本でハングリーに学び、生きに育ったこれらの若者は、日本でハングリーに学び、生きに育ったこれらの若者は、日本でハングリーに学び、生きしない。現在、在日ウイグル人社会で問題となっているもしない。現在、在日ウイグル人社会で問題となっているが、実はこの時期に新たに来日したが、発売で強制収容が始まると、中国から日本に来るウイグ

害については、なんらかの法の下で対処するシステムをつ る。人権尊重や生存権は、人類共通の価値観であるはずだ。 釈放身元引受人となったこともある。ただし、最近はこう 管通いもした。日本で心を病んで学業を修了できず、ビザ り、難民申請や滞在ビザ延長願いの作文を手伝ったり、入 公の証書が足りないため国家試験の受験資格を得られない 連れて、外務省人権課へ状況説明と陳情に行くこともした。 育をうけ、タシポラットは日本で博士号を取得している。 び、話を聞いた。ティップ兄弟は、ともに長い間日本で教 には元女性収監者メヒルグル・トゥルスンとリモートで結 国家分裂主義者として拘束された新疆大学学長タシポラッ 跡的に国外脱出できた元旅行会社副社長オムル・ベカリと、 開いてきた。例えば一八年には、元強制収容所収監者で奇 アムネスティと明治大学現代中国研究所共催で証言集会を ある民族集団を対象とした、国家規模の大規模な生存権侵 が切れても帰国を拒んで入管に拘束されたウイグル人の仮 ウイグル人学生に付き添って関係省庁に事情説明に行った ト・ティップの弟ヌーリ・ティップの二人を招き、一九年 たボランティアを個人で続けることに限界を感じてい 身内が強制収容所にいる一五名ほどの在日ウイグル人を

> ことになるからだ。 くらなくては、誰かが、いつ果てるともない徒労を続ける

私は長くアムネスティ日本の中国部門に関わり、

近年は

## 東トルキスタンイスラム運動と「テロ」

新疆ウイグル自治区政治協商会議副主席アロンハン・ハ 新疆ウイグル自治区政治協商会議副主席アロンハン・ハ 新疆ウイグル人たちがいた。カミカゼアタック的な自死も辞さの役職に就き、同族を弾圧する側に回った者の命を狙ったウイグル人たちがいた。カミカゼアタック的な自死も辞さらは背後に巨大な組織があったのではなく、政治に不満をらは背後に巨大な組織があったのではなく、政治に不満をらは背後に巨大な組織があったのではなく、政治に不満をらは背後に巨大な組織があったのではなく、政治に不満をらは背後に巨大な組織があったのではなく、政治に不満をらは背後に巨大な組織があったのではなく、政治に不満を中組織、東トルキスタンイスラム運動(ETIM)による仕業」と国際的に喧伝した。「テロとの戦い」を遂行するアメリカは、中国共産党に呼応してETIMを二〇〇二年アメリカは、中国共産党に呼応してETIMを二〇〇二年アメリカは、中国共産党に呼応してETIMを二〇〇二年アメリカは、中国共産党に呼応してETIMを二〇〇二年アメリカは、中国共産党に呼応してとの戦い」を遂行するとの役職に対している。

反対する戦いを挑む』を作成し、ユーチューブなどにも転

視台がドキュメンタリー

『暗流湧動-

中国新疆テロに

Mテロ組織解除が大いに影響していると思われる。 載して自らの主張を開陳しているのは、アメリカのETI

教育庁元長官であったサッタル・ダウットである。彼の作 拘束も大々的に宣伝している。特に気がかりなのは、 激派思想」に毒された人々と接触していた者――の逮捕 過激テロ組織」が実在して、ウイグル人を誘導し、大規模 自説を、テュルク系ムスリムを強制収容する口実としてい は「在外勢力ETIMが新疆のテロを主導している」との 役構成員)と名乗る人々へのインタビューを行った。 ラム系のウイグル人反政府組織構成員だった(あるいは現 たと結論づけて、死刑判決が下された。彼は日本に暮らし 成したウイグル語教科書が、国家分裂主義者を生んでいっ いる。両面人――政治の要職に就きながら、「イスラム過 ロリストの疑いをかけられて何年も拘束されたままの者も の狩猟銃を納屋に置いたまま忘れていたのが見つかり、テ テロを仕掛けているかのような一大宣伝を打っている。 公表することなく、まるでETIMという「巨大イスラム るが、これは全く事実に反する。中国共産党は、在外ウイ グル人イスラム組織の実態と現状を把握しながら、事実を 「労働教育センター」に強制収容された農民の中には、昔 私は二〇一五年前後、 トルコや中央アジアなどで、 中国 イス 新疆

> 分裂主義」に結びつくとはとうてい思えない。 ル語テキストに掲載され、愛読されていた。それが「国家たことがあり、その経験を記したエッセーが、長くウイグ

#### ウイグル問題にもっと理解を

味方だと見なす者もいる。一方で、中国共産党のプロパガ として、この問題が利用されるケースも散見され、さらに に問いただして欲しいと切に願っている。 本政府には、日本で学んだウイグル人の安否を、 ちたいとの志があったゆえに、帰国の道を選んだのだ。 組が少なくなかった。元留学生たちは、現地社会の役に立 引していたウイグル人にはタシポラットのような日本留学 あった。そのため強制収容が始まる前の新疆で、社会を牽 とって比較的簡単に出国でき、高等教育を受けられる国で 今ではいわゆる思想・情報戦の体を成している。 ンダを検証することなく信じる日本人もおり、この問題は、 ウイグル人の中には、漢人を口汚く罵る日本人が支援者・ 認知されるに至った。だが、漢人への憎悪やヘイトの材料 積み上げてきた。そしてようやくウイグル問題は日本でも 私は新疆やウイグル民族への興味から、 九九〇年代から二〇〇〇年代の日本は、ウイグル人に 証言や史資料を 中国政府